

ICTと教育

三股町教育研究所

所長（教育長） 石崎 敬三



毎週火曜日の夕方になると、教育長室隣にある中央公民館第三研修室から元気の良い話し声が聞こえてきます。10名の教育研究所研究員の先生方と園田研究指導員の活発なやり取りです。後日回覧される研究員のスピーチや研究内容を確認することが私の楽しみの一つになっています。

さて、いよいよ今年の秋から学習用タブレットPCが本格的に配備されます。梶山小学校及び長田小学校は全児童分、その他の小中学校は1クラス分の配備となります。

現在では、民間、行政を問わずICTの活用なしには業務を進めることはできません。一方で、ユーザーの利便性や効果的な活用方法を十分に検討しなかったために、多額の公費を投入しながらお蔵入りとなってしまった事例も数多く見受けられます。

三股町では、校務支援システムやグループウェアをいち早く導入するとともに、実物投影機や大型ディスプレイ、教師用タブレットPCの配備を進めてきました。このように他市町村に先駆けて教育のICT化を進めてくることができたのは、教育研究所においてICTの利活用の研究に取り組んできた成果に他なりません。今回の学習用タブレットPCの導入に当たっても、その運用方法や機種選定について研究員の皆さんを通して学校の意見を集約させてもらいました。今後、運用していく中で、児童・生徒の学力向上に確かな効果があることを実証し、更なる展開を検討していきたいと思えます。

ところで、6月に梶山小、宮村小、長田小及び三股中の4校の学校訪問を行い、授業の様子等を見せていただきました。その際の私の着眼点の一つが、ICTがどのように授業の中で活用されているかを確認することでしたが、いくつか気づいた点を述べてみます。

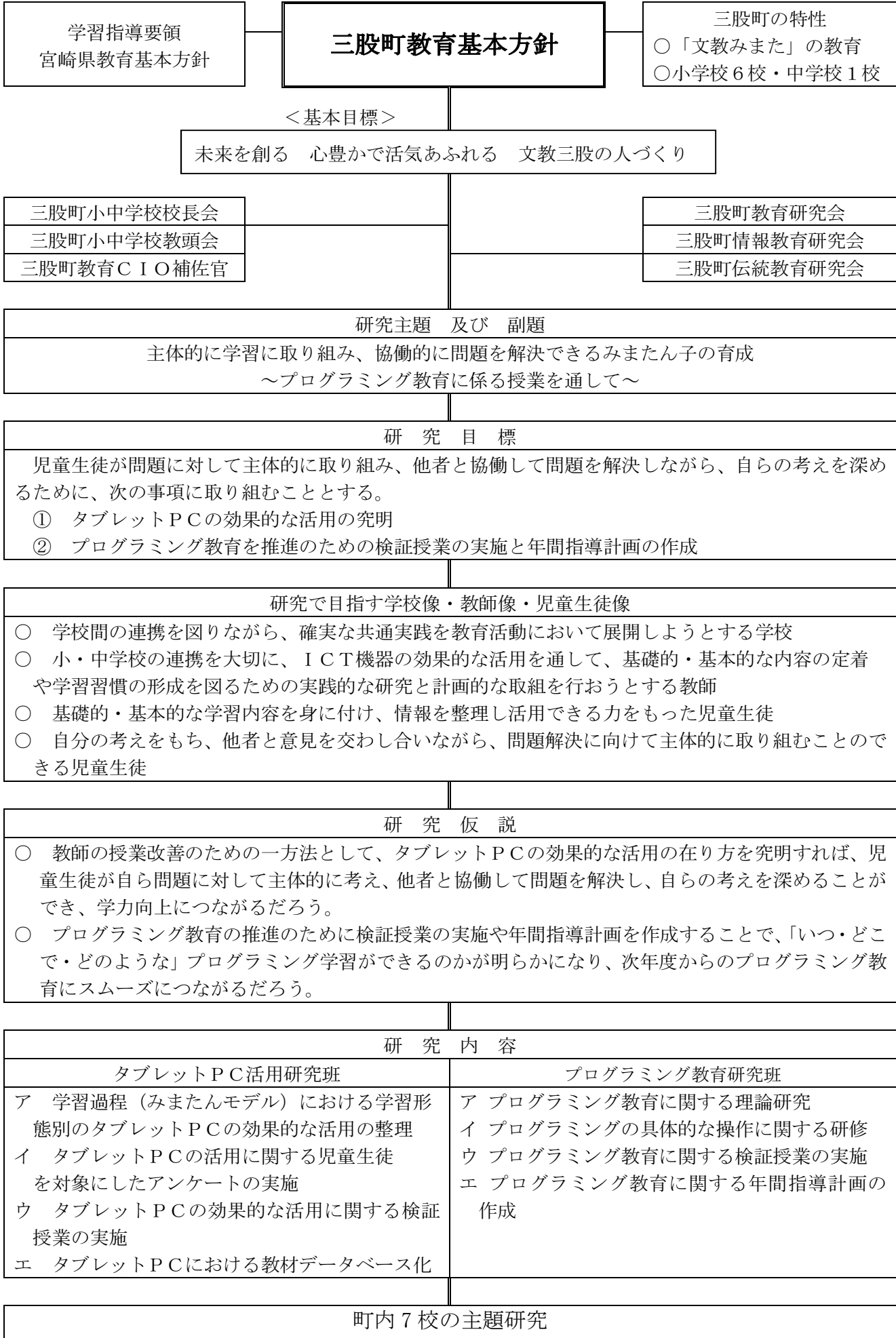
まず、大型ディスプレイについてですが、映り込みなどで画面が見にくい場合があるので、児童・生徒が確実に見ることができているか確認が必要と感じました。また、表示する面積は圧倒的に黒板の方が広いので、大型ディスプレイと黒板の特性を理解し、適切に使い分けることが必要だと改めて認識したところです。

次に、今回の授業参観においても、タブレットPCから画像を表示できない事例に出くわしましたが、タブレットPCが使用できない場合に、どのように授業を展開するかを考えておく必要があります。

最後に、授業の時間配分とタブレットPCの起動時間の関係です。指導案で設定した時間配分のとおりには授業が進行しない場合もあると思えます。授業のたしかめにタブレットPCを利用する場合に、児童・生徒があまり使用に慣れていない段階では、配布と起動に予想外に時間を必要としてしまい十分にタブレットPCを利用できないまま授業が終了してしまうということもあるのではと感じました。

終わりに、夢としては、児童・生徒一人に一台のタブレットPC配備を目指したいところではありますが、まずは、教育研究所の研究結果が十分に生かされることにより、教師用タブレットPCの利用率100%達成と、学習用タブレットPCの利用が児童・生徒の確かな学びにつながっていくことを期待したいと思います。

令和元年度 研究の全体構想図



TPC 活用していますか？

TPC (タブレットパソコン) が三股町の学校に導入されてしばらく経ちますが、先生方、授業の中でどれくらい TPC を活用されていますか？活用したいと思う、活用できたら便利だと思う…けど、なかなか活用に踏み切れない…！そんな先生方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。今回は、日々児童生徒のために授業を試行錯誤されながら、TPC を活用されている三股中の先生方の活用事例をご紹介します◎なお、三股 TPC パークにもたくさん事例が載っていますので参考にしてください。



(TPC 活用方法を模索する、ある日の森先生)

【国語科】

- ・動画の視聴 (YOUTUBE の動画など)
- ・YOUTUBE の字幕機能を活用して、動画視聴
- ・パワーポイントをフラッシュカードとして
- ・漢字の書き順の確認
- ・生徒が書いた作文などの提示
- ・(書写) 筆使いを動画で撮影して視聴
- ・(書写) 姿勢などを写真で撮影して提示

【音楽科】

- ・合唱の映像を動画で提示 (字幕で歌詞も提示)
- ・活動の様子を動画で撮影、視聴

【保健体育科】

- ・活動の様子を動画で撮影
- ・動きやフォームなどを撮影して提示

【社会科】

- ・デジタル教科書の提示
- ・班ごとに話し合って書かせた内容の提示
- ・動画の視聴
- ・グラフや写真の提示

【理科】

- ・デジタル教科書の提示
- ・実験結果を写真で撮影し、テレビに投影
- ・現実での提示が難しい物質の写真の提示

【家庭科】

- ・パワーポイントの提示
- ・縫い方など、写真を拡大して提示
- ・ノートの書く場所、位置などを画面に投影
- ・実物投影機としての活用



レッツ シェア！ イン트라ネット教材・教具を共有しましょう！

三股町内の先生方！「三股町イントラネット教材データベース」をご存知ですか？イントラネットとは、情報の交換やその共有を目的に構築されたプライベートネットワークのことです。イントラネット内では、自分の作成した資料をアップロードしたり、既にアップロードされた資料を検索したりすることができます。つまり、三股町内における先生方の間において、写真や文書、パワーポイントなど、様々な教材・教具を共有することが可能になるのです。イントラネットを活用することで、指導の充実や教材研究の効率化に繋がっていきます。今後も、たくさんの先生方に資料を提供して頂いて、より充実したネットワークになっていくことを期待しています。ぜひご活用下さい。(「三股町イントラネット教材データベース」は、三股町学校間共有から利用することができます。)

ワード検索

小学校向け

小学1年 小学2年 小学3年 小学4年 小学5年 小学6年

国語 算数 理科 社会 英語 総合 生活 音楽 図工 家庭 体育 道徳 特活

中学校向け

中学1年 中学2年 中学3年

国語 数学 理科 社会 英語 総合 音楽 技術 美術 家庭 体育 道徳 特活

その他

特別支援 農産

アップロードも検索も簡単です。ご不明な点がございましたら、研究員まで、お尋ね下さい。



令和元年度 三股町教育研究所 研究員

私たちは「文教みまた」の継承と発展のために頑張ります!!

			
三股町教育委員会 園田 修司	三股小学校 甲斐 真由	三股小学校 上森 翔太	勝岡小学校 杉尾 育樹
			
梶山小学校 荒井 のぞ美	長田小学校 藤田 政宏	宮村小学校 渡邊 彩香	三股西小学校 郡 千裕
			私たちは、令和元年度の研究員です。三股町の子どもたちの学力を伸ばすため、日々研究しています。 毎週火曜日 17:30～19:30に中央公民館で研究会を行っています。どうぞよろしくお願い致します。
三股西小学校 高崎 雅士	三股中学校 森 瑞樹	三股中学校 原口 愛未	

編集あとがき

昨年度は、おもに、「タブレットPCがどのような場面で活用できるのか」について、研究授業を行ったり、タブレットPCの活用事例集の作成をしたりと研究を深めてきました。

そして、今年度は昨年度、研究したことを生かしながら、さらに、プログラミング教育についても研究を進めていく予定です。私たち、研究員もこれからプログラミング教育の知識や技能、活用などの研究を進めて参ります。タブレットPCの活用やプログラミング教育を通して、三股町内の子どもたちの将来の可能性を広げることに繋がればと思っています。

これからも皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

「主体的・対話的で深い学び」のために

三股町教育研究所

研究指導員 園田 修司

新学習指導要領による教育課程が、いよいよ来年度から小学校がスタートします。各小学校では、教科等の年間指導計画や各種全体計画の作成等、諸準備が進められているのではないのでしょうか。今回の改訂のポイントは「主体的・対話的で深い学び」です。ではこの「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなことでしょうか。平成30年度の三股町教育研究所「研究紀要」では次のように整理しました。



① 「主体的に学習に取り組む」とは

授業の導入段階で示された話題の中から疑問や課題をつかみ、興味関心や向上心に基づいた意欲をもって、課題を解決していこうとしていること。つまり、次のような授業中の児童生徒の姿である。

- 自ら挙手をして、発表しようとしている。
- 自分で、疑問や課題を見つけている。
- 課題に対して、必要感や切実感を感じている。
- 自力で課題を解決しようとしていたり、ねばり強く考えたりしている。

② 「協働的に問題を解決する」とは

課題の解決に向けて、複数の児童生徒がお互いに意見や考えを説明し合ったり、尋ね合ったりしながら対話をして、課題に対する自分たちなりのまとめをしていること。つまり、次のような授業中の児童生徒の姿である。

- 1つの目標に向かって、お互いに高め合っている。
- 課題の解決に向けて、それぞれが相手の意見や考えを尊重し、相手の意見や考えも聞き入れながら、自分の思いを伝え合っている。

③ 「深い学び」とは

課題解決の過程や結果で得られた情報と、すでにもっている自分の知識と関連させながら、どのようなことが言えるかや今後の自分の学習や生活にどう活かせるかを考えて表現していること。つまり、次のような授業中の児童生徒の姿である。

- 課題解決に向けて試行錯誤し、児童生徒が達成感を得ている。
- 課題解決をしながら、得た知識や分かったことを、すでにもっている自分の知識と関連させて自分なりのまとめを出している。
- 実際の生活場面と結びつけて、考えている。
- なぜそれを学ぶのか、学んだことを次にどうやって活かしていくのか、まとめからどんなことが考えられるかなど、今後の自分に活かせる何かを得たり、考えたりしている。

たぶん先生方は、このような児童生徒の姿を目指して、日々授業を工夫改善されていることでしょうか。「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、一つは基礎・基本を確実に身に付けさせることです。その上で児童生徒は、これまで学んだ知識や技能をこれから学ぶ学習と関連付けて考えることができ、理解したことを自分の言葉で話したり、説明したり、学び合ったりすることができるのではないのでしょうか。もちろん、学習内容の定着について見届けを確実に行うことが必要です。もう一つは、児童生徒に問題提示により「なぜだろう、どうしてだろう、早く解きたい」などと、その問題を「自分の問題」として捉えさせ、「自分で課題をもつ」「自分で考える」「自分の言葉でまとめる」「自分が発表する」などと意識させることではないのでしょうか。そのようなことが目指す児童生徒の姿に近づくものと考えます。学習の成果は一朝一夕で出るものではありませんが、目の前の児童生徒のために、先生同士が日常的にコミュニケーションをとりながら協働して授業改善に取り組むことが大切だと思います。

本年度の研究所は、研究主題「主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できるみまたん子の育成」、副題に「プログラミング教育に係る授業を通して」を掲げ、日々の研究に励んでいます！今年度は3回の研究授業を行い、TPC（タブレットパソコン）も効果的に授業の中で活用してきました。

以下、長田小学校の藤田政宏研究員、三股西小学校の郡千裕研究員、三股小学校の上森翔太研究員の授業をご紹介します。なお、藤田研究員の理科の授業におけるプログラミング学習では、プログラミングソフト「Scratch（スクラッチ）」を活用しています。



長田小学校第4学年

藤田先生による研究授業 理科「夏の生き物」

【本時の目標】

- 夏の生き物には種類によって様々な特徴があることを知り、進んで生き物クイズを作成したり、友達との生き物クイズに参加しようとしていたりしている。



授業は理科「夏の生き物」を学習したあと、学習内容を深める活動として夏の生き物クイズを作りました。そのクイズを作る際に使用したのが、プログラミングソフトの「Scratch」です！クイズを2つ作成し、2つめのクイズを作成するときには、1つめのプログラムをコピーして使用するなど、TPCだからこその機能や便利さを活用して授業が展開されていました。

このあと席を移動して、児童が作成した生き物クイズの交流を行っていました。パソコンを操作しながらのクイズに児童も楽しそうに取り組んでいました！

長田小学校は1人1台タブレット！画面のタップやマウスの使い方も随分慣れてきているような印象でした。キーボードはローマ字入力。ローマ字表を確認しながら、問題文をしっかりと入力していました。



【成果と課題です！】

初めてのプログラミング教育に関する研究授業でしたが、授業者の様々な準備や手立て・工夫があり、児童が楽しく意欲的に取り組むことができました。また、TPCは児童生徒の関心・意欲をアップさせることができると再確認できました。さらに、クイズ1のプログラムをコピーしてクイズ2で使用したり、今回プログラミングした内容をほかの学習で活用したりするなど、パターン化した活動がプログラミング的思考を育てることに大変有効であることが分かりました。プログラミング教育について初めての児童がほとんどです。そのため、文字入力の仕方や半角全角の区別など、TPCの基本的な操作について指導することがたくさんあります。今後、それらの系統性を考え、計画的に指導していくことが必要です。

三股西小学校第3学年

郡先生による研究授業 国語科「もうどう犬の訓練」

【本時の目標】

- 順序を表す言葉に注目して文章の組み立てをとらえ、カードを並び替えたり、印を付けて説明したりすることができる。



「終えて」という言葉があるから、「おわり」になります。カードを正しい順番に並び替えましょう。

児童が一人一台ずつTPCを使用して授業を行いました。ジャストスマイル(カード)を活用して、要約した文章を「はじめ、中、おわり」に並び替えたり、根拠となる言葉に印を付けたりと、文章の組み立てについて考えました。

「さいしょは」という言葉があるから、1番目は㊸、「次は」という言葉があるから2番目は㊹になると思います。

児童が印を付け、並び替えたカードをTV画面に映しました。キーワードを指し示しながら、分かりやすく説明することができました。



【成果と課題です！】

教師が、TV画面上で操作の手順を押さえることで、大人数でもTPCを有効に活用することができました。

TPCを活用することで、カードを操作しながら思考したり、全員が同じ画面を閲覧した状態で発表したりすることができました。

また、タッチペンの色や線の太さを指定しておくことや発表を聞く際には画面を伏せさせることなど、児童にTPCを活用させる上での課題も見つかりました。



三股小学校第6学年

上森先生による研究授業 算数科「円の面積」

【本時の目標】

- 複雑な形をした図形の求め方を考え、式と図とを結び付けて、求めることができる。



パワーポイントを使って、半径 10 cm の円や半円の面積などを復習しました。半径 10 cm の円から、2分の1の大きさの円、4分の1の大きさの円と動画で変化することで、児童もスムーズに既習事項を復習することができていました。



上森先生が自作したパワーポイントのデータは、「三股町イントラネット」にあります。先生方も、どんどん「三股町イントラネット」を活用してください！



既習事項をもとに、葉っぱの形の面積を求めることができました。

【成果と課題です！】

導入の段階で、自作したパワーポイントを使って、半径 10 cm の円から、2分の1の大きさの円、4分の1の大きさの円と動画で変化することで、視覚的に分かりやすく既習事項を振り返ることができました。また、児童が意欲的に活動することにも繋がりました。課題として、児童自身がタブレットを活用する場面がなかったので、今後は、児童用タブレットも使い、ペアやグループでの話し合い活動などで活用すると、もっと効果的にタブレットを使うことができるのではないかと思います。

編集あとがき

本年度は、パワーポイントを活用した授業、プログラミング教育を取り入れた授業、そして、本年度三股町に導入されたジャストスマイルを活用した授業の3つの研究授業を行いました。いずれの授業も、今後の三股町の教育につながる授業だったのではないかと思います。来年度からは、本格的にプログラミング教育の授業も始まります。研究所で行ってきたことが、少しでも先生方の授業で役立てることにつながればと思います。

新学習指導要領の全面実施に向けて

三股町校長会（勝岡小学校校長）
会 長 和田 小夜子

現在、全国的に教職員の大量退職と新人教職員の大量採用、また、一方では講師不足がここ数年進行しています。まさに本県、そして本町でも身近な課題であります。そのような中、教職員の多忙感、大きくは働き方改革からくる教職員が授業を中心とした質の高い教育活動に専念できる環境を実現しなければなりません。ますます学校における教育の質の向上と児童生徒の教育の充実が求められています。

いよいよ令和 2 年度及び令和 3 年度は、新学習指導要領の全面実施の年です。これからの教職員に求められる資質能力も多様です。例えば、新たな学び（知識や技能を活用する学習活動、探求型の学習、協働的な学び）をデザインできる実践的指導力や、外国語教育の導入、道徳の教科化、特別支援教育の充実、ICT活用などが対応すべき課題として挙げられてきました。全面実施に向けて各学校で準備を進めてきました。

さて、本町では平成 28 年度までに各教室に大型テレビが配備され、29 年度からはタブレット PC が順次導入され、ICT 教育に関わる環境が整備されてきています。さらに、本町教育研究所では、本年度タブレット PC の効果的な活用の在り方を通して、プログラミング教育に係る授業を中心とした研究に取り組み、本町の ICT 教育の推進を担ってきました。プログラミング教育の全体計画や、育成したい資質や能力を明確にした系統性のある年間指導計画案を作成できたことも、研究の成果です。また、学習支援システムの高度化と校内の情報ネットワークの構築、さらに、校務支援システムの導入も進んでいます。

今後も、教育を取り巻く環境は、大きな変革の中で日々変化し続け、複雑化を呈していくことが予想されます。しかし、私たちは教育における「不易と流行」を見極めながら、文教三股の子どものたちの健全育成のため、学校のため、そして地域のために、日々研鑽を積みながら職務に当たっていかねばなりません。

子どもたちにとって、学校における最大の教育環境は教職員です。高い専門性をもち、分かりやすい授業を行い、子どもに確かな学力を育成させるための授業力を求められています。そのためには、絶えず学び続ける教職員でありたいと願っております。

来るべき新しい時代を見据えて、町校長会といたしましても、町内 6 小 1 中の強みを生かし、教育のプロジェクトチームである当教育研究所との連携を図りながら、三股町の教育の充実向上に向けた取組を推進していく所存です。

最後になりましたが、今後とも三股町並びに三股町教育委員会のご指導ご支援をよろしくお願いいたします。



「宮崎県教育研究機関連絡協議会発表会を終えて」

令和2年2月7日に、宮崎県教育研修センターにて「令和元年度宮崎県教育研究機関連絡協議会第37回研究発表大会」が開催されました。三股町教育研究所をはじめ、合計12の研究発表が行われました。今回の研究発表大会は、「確かな学力」や「主体的・対話的で深い学び」、「基礎的・基本的な学習内容の定着」などについて取り上げられていました。さらに、今年の研究発表大会は、来年度から始まる「プログラミング教育」について研究を進めている研究機関も多くありました。


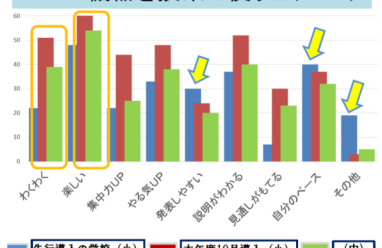

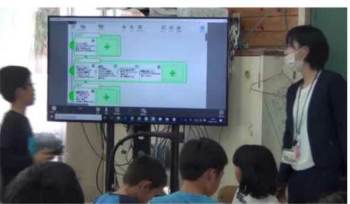


三股町においては、研究主題を「主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できるみまたん子の育成」、副題を「プログラミング教育に係る授業を通して」として研究を進めてきました。

今大会では、三股町の教職員や児童生徒を対象に行ったアンケート結果や研究授業の成果や課題などをもとに研究発表を行いました。三股町教育研究所の発表を見ていただいた方々からのアンケートを見ると、多くの賞賛のご意見を頂きました。一方で、今後の三股町のタブレットPCのさらなる活用の方法やプログラミング教育の進め方などについての課題も見えました。

他研究機関で推進されている研究内容には、今後の三股町の研究に参考になりそうな考えや取組も多くありました。

これからも、タブレットPCの効果的な活用方法やプログラミング教育などの研究を進めて参りたいと思います。

【今年度の研究の概要】

<p>本年度の研究内容</p> <p>(1) タブレットPC活用研究</p> <p>効果的な活用の在り方を究明する。</p> <p>(2) プログラミング教育研究</p> <p>次年度からのプログラミング教育を推進する。</p>	<p>タブレットPC活用研究班</p> <p>② アンケートの集計・分析</p> <p>○ 教職員対象 ○ 児童生徒対象</p> 	<p>1 ICT機器を授業で使うと()</p>  <p>先行導入の学校(小) 本年度10月導入(小) (中)</p>
<p>第1回授業研究会</p> <p>閲覧性</p> <p>みとおしの段階</p> <p>○ 自作のパワーポイントを提示する。</p>  <p>教師の意図: 既習事項の復習</p> <p>○ 短時間で振り返りができた。 ○ 意欲を高めることができた。</p>	<p>第3回授業研究会</p>  <p>まなびあいの段階 (全体で)</p>	<p>個別性 第3回授業研究会</p> <p>○ ペンの色を変えたり、太さを変えたりしてなかなか活動が進まない。 →色や太さを指定する。</p> <p>○ TPCを使うのが楽しみで、聞くことが疎かになりがちである。 →発表者以外は、TPCを伏せて置く。</p> <p>○ 考えのあとが残らない。</p> <p>○ グループでの話し合いの仕方、個別指導の在り方に工夫が必要である。</p>
<p>プログラミング教育研究班</p> <p>① 理論研究 ② 実践研究(授業研究会) ③ 指導計画の作成</p>	<p>第2回授業研究会</p> <p>まなびあいの段階</p> <p>②作成しておいた2問目の問題を確認する。</p>  <p>③前時のプログラムを書き直す。</p> 	<p>○ 自分のベースで学習していた。 ○ 疑問を持って課題解決にのぞんでいた。 ○ 何度もプログラムを書き直していた。</p> <p>主体的な学び</p> <p>○ 相手を意識して発表していた。 ○ 学習問題について意見を出し合っていた。</p> <p>協働的な学び</p> <p>○ 学習内容の理解が深まる。 ○ 試行錯誤しながら考えをまとめる。 ○ ものの見方や考え方の幅が広がる。</p> <p>深い学び</p>

三股町教育研究所発表に対する意見等

1 参考になったこと・素晴らしいと思ったこと等

- ICT機器を活用した授業に関する実践事例集（100以上の事例）を作成し、町内の全教師がいつでも閲覧できる点が素晴らしいと感じました。
- 教材データベース化は、教職員の資質向上を図る上でも、働き方改革を進める上でも、大変有効であると思いました。
- タブレットPCの有用性を4つに整理していることで、使い所が分かりやすかったです。あくまで教えるための道具であり、とらわれすぎないというメッセージも伝わりました。
- プログラミング教育の年間指導計画、身に付けさせたい知識・技能が、分かりやすく整理されていて、すぐに実践できそうだと思います。どこの市町村も参考にしたいものでした。

2 分からなかったこと・気になったこと等

- 児童が、タブレットPCを使うことが目的になっている気がしました。そもそもタブレットの必要性は、どの程度あるのでしょうか。
- 教科の中で指導を行う際に、プログラミングのリテラシーに、時間がとられることが気になりますが、過渡期なので仕方ない気もします。
- 教科の学びを確かなものにするために、プログラミングを取り扱う意義とは何なのでしょうか。また、その確かな学びに対する評価はどうなっているのでしょうか。

《 一年間を振り返って 》

本年度は、研究主題「主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できるみまたん子の育成」として、タブレットPCの効果的な活用の在り方とプログラミング教育に関する研究に取り組んできました。

まず、タブレットPC活用研究班は、「みまたんモデル」の各学習過程においてICT機器をどのように効果的に活用しているか、昨年度作成した「タブレットPC活用事例集」をもとに、タブレットPCの4つの有用性との関連で整理しました。さらに、児童生徒のICT機器に関する意識調査を初めて行いました。

児童生徒は、ICT機器の活用を楽しみにしていると同時に、その活用により意欲的に学習に取り組むことが明らかになりました。次に、プログラミング教育研究班では、プログラミング教育に関する検証授業を通して、課題が明らかになりました。それを「プログラミング教育を行う際に身に付けさせたい知識・技能（案）」として整理しました。その他にも、プログラミング教育の全体計画（案）、年間指導計画（案）を作成しました。次年度からのプログラミング教育の参考になるのではないかと思います。

最後に、本年度研究を共に推進してきた10名の研究員の皆さんの真摯な取り組みにより、大変充実した研究ができ素晴らしい成果を挙げることができました。これも、研究所を支えていただいた町内の校長先生方及び関係各位の皆様方のご理解とご支援のおかげと心より感謝申し上げます。

研究指導員 園田 修 司



🌸 研究員生活を振り返って

研究所に入る前までは、タブレット PC をどのように授業で生かせばよいか分からない自分がいました。こんな自分が研究所に入っているのかと、とても不安でした。しかし、研究所の楽しくて、とっても明るい先生方に支えられ、2年間を過ごすことができました。また、タブレット PC の活用方法やプログラミングについてなど、多くの学びがあった2年間でした。この研究所で学んだことをこれからの教員生活に生かしたいと思います。本当にありがとうございました。

三股小学校 田鍋 真由

本年度の研究は、タブレット活用に加えて、来年度から実施になるプログラミング教育に関する研究も始まりました。勉強不足なこともあり、とても不安でしたが、なんとか1年終えることができました。振り返ってみると毎週の研究所でとても充実した時間を過ごすことができました。来年度は大きく変化のある1年だと思いますが、みなさんと協力して変化に対応していきたいですね。

園田先生を始め、たくさんの先生方にお世話になりました。ありがとうございました。

三股小学校 上森 翔太

通常の勤務では会う機会がなかったであろう、他校の先生方と一緒に研究をすることは、とても楽しく、いろいろな刺激を受けることができました。

また、「プログラミング教育」という学習内容を深く学べたことが何よりも自分の糧になったと感じています。まだまだ勉強中ですが、私と同じように不安を感じている先生方が、安心して指導ができるように来年度の研究所の活動に努めて参ります。

勝岡小学校 杉尾 育樹

これまで経験していない新しい時代が来るのだと、社会や教育の変化を大きく感じた1年でした。新たなチャレンジにも前向きに取り組み、今わくわくした気持ちでいられるのは、いつも楽しく笑顔いっぱい、居心地のよい研究所だったからです。どんな意見や質問も受け入れてもらいました。ICTを効果的に活用することは特別支援学級に在籍する児童の学習や将来にも意義深いと思います。研究所での学びを学校で共有し、生かしていきます。

梶山小学校 荒井 のぞ美

今考えると本当に申し訳ないことですが、はじめは「研究所ってどんなところ？」と、無知のまま開所式を迎えたことを覚えています。1年間たくさんの情報を得たり、試行錯誤を繰り返したりした証として、とじていったプリント類は5cmの厚さになりました。導入された児童用TPCを学校で積極的に活用している姿から、研究所での取組は意義のあることだと実感しています。アットホームな雰囲気の中でも鋭く的確で、難しい言葉が飛び交う研究所での時間はこれからの教員生活、人生を豊かなものにしてくれると思います。1年間お世話になりました。

宮村小学校 渡邊 彩香

今年度の研究所は、今までのICT機器活用に加え、プログラミング教育にも取り組みました。

特に小学校の教育現場においては喫緊の課題であり、町内の先生方の負担軽減になると嬉しいです。研究紀要には、ICT機器と「みまたんモデル」との関連が一目で分かるようになっていました。プログラミング教育と合わせて、来年度先生方に活用していただき、より良い内容に作りかえていただきたいです。ありがとうございました。

長田小学校 藤田 政宏

研究所は、楽しく学ぶことができます。そして「学校全体、町全体の教育に目を向けるきっかけ作りになる場所」だと、2年間の研究所生活を通して思いました。私は、教師としてまだまだ未熟で、自分のことで精一杯です。しかし、そんな私が子どもたちだけでなく、先生方のために何かできることはないかと考えるようになったのです。研究所に行くと、ほんの少しだけ皮剥けたような気がします。2年間、本当にありがとうございました。

三股西小学校 郡 千裕

研究員1年目は、初めてのことばかりで、新しい学びや発見の連続でした。特に、先輩方がTPCやプログラミングソフトを効果的に活用し、実践される姿を見て、たくさんの刺激をいただきました。来年度は、作成された「プログラミング教育の年間指導計画(案)」や「身に付けさせておきたい知識・技能について(案)」を基に実践を重ねて、子どもたちの学力向上に貢献できたらと思います。たくさんの御指導と御協力、励ましの御言葉をありがとうございました。

三股西小学校 高崎 雅士

今年度研究所員に任命され、これまでもICTを使用したことはあったものの、その効果的な活用やTPCの活用、小学校教育という視点、プログラミング教育など、本当に初めてのことばかりで戸惑いも多くありました。しかし1年間同じ研究所の仲間である先生方に支えていただき、毎週充実した研究で自分自身の研鑽に繋げることができました。生徒の学力向上と、学校現場でより良いICT活用を目指して今後も修養に努めていこうと思います。たくさんのご指導、本当にありがとうございました。

三股中学校 原口 愛未

今年度、研究員に任命され、最初は戸惑いもありましたが、三股町の小中学校の先生方とともに研究していくという、とてもやりがいのある研究であり、毎週充実した活動ができました。

特にプログラミング教育については、勉強になることばかりで、時代の変化を強く感じました。また自分自身もICTを活用した授業を心がけ、生徒の学力向上について考えた1年でした。今年度学んだことを来年度に生かしていきたいと思っています。

三股中学校 森 瑞樹